

# 自閉症者の水泳指導に関する研究

## - クロール技術の定着について -

上村 駿介 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 金田 安正

キーワード：水泳指導, クロール, 自閉症

### 1. はじめに

筆者は、ボランティアとして、本大学で活動している障害者の水泳教室に参加している。その中で自閉症者の T と出会った。

ここでは、筆者が考えた T に対して行った有効な指導について検討することにした。

### 2. 研究方法

1) 症例: 自閉症者 T 男子 高校生

2) 期間: 2011 年 4 月 14 日から 2012 年 12 月 13 日までの期間で、夏期等の長期休暇を除く毎週木曜日の 1 日 45 分行った。

3) 場所: 本大学アクアセンター

4) 方法: 文献などを参考に、指導内容や練習方法を考え指導を実践した。

### 3. 指導実践

T はクロールをするときに右腕のみを回していた。また、途中で泳ぐことをやめることがあった。これらの問題点を改善させるため、腕を回す練習や最後まで泳ぎきることを定着させるために繰り返し練習を行うようにした。また絵カードやビート板など道具を使って指導を行った。筆者の指導の流れを図に示したが指導に対して反応がなかったものを×とし、反応があったものはそのあとの経過が書かれている。

#### ① コミュニケーション

当初は全く筆者の話をお聞きせず、勝手に泳ぐことがあった。そこで練習中に言葉をかけることや、簡単な質問を繰り返すようにした。

#### ② 絵カードを使用した練習

自閉症児・者が学校や家庭で使っている視覚

的情報手段を水泳指導で用いた。

テーマ	内容	使い方	Tの行動	筆者の対応	Tの反応
絵カード	絵カードを見せる	あいさつ	「こんにちは」とあいさつする	「こんにちは」と返事する	目をキョロ
		体操	体操をする	見本を見せる	同じように
		クロールで泳ぐ	右腕だけを回す	×	
		最後まで泳	途中で泳ぐこと	×	
タッチカード	タッチカードを見せる	タッチカードにタッチする	タッチカードをタッチする	「すごい」と褒める	「すごい」と返事する

#### ③ 直接的な指導方法

言葉や絵カードを使用しただけでは、腕を回す動作につながらなかった。そこで、プールサイドで筆者が直接 T の腕を持って回す練習を行った。また、泳いでいる時に腕を掴み、回すことも加えた。

#### ④ ビート板を使用した練習

直接的な指導に加えて、ビート板を使用した。腕の回しが小さかったのでビート板を使うと大きく回せるようになった。

#### 4. おわりに

自閉症の症状は多種多様である。そのため、個々の特徴を理解し、指導法を考えて行く必要がある。また、T への指導では、本人が理解できるまで繰り返し行うことで、腕を回す動作につながったといえる。

#### 参考文献

小林信篤. (2008). TEACCH プログラムによる日本の自閉症療育. 学研